

令和4年度
大分川・大野川学識者懇談会
〔大野川水系河川整備計画の事業進捗報告〕

令和4年8月2日

国土交通省九州地方整備局
大分河川国道事務所

(1) 学識者懇談会における事業評価等の実施状況

大野川水系河川整備基本方針の策定 (H11)

大野川水系河川整備計画の策定 (H12)

- ・ 大分川・大野川学識者懇談会設立 (H26)
- ・ 整備計画の点検 → 変更案の説明 → 事業再評価 (H26)
(東北地震、九州北部豪雨等の河川を取り巻く状況を踏まえ)

大野川水系河川整備計画の変更 (H26)

- ・ 事業進捗報告 (H27)
- ・ 事業進捗報告 (H28)
- ・ 整備計画の点検・事業再評価 → 事業継続 (H29)
- ・ 事業進捗報告 (H30)
- ・ 整備計画の点検 (R1) 計画高水流量を超過したH29.9台風18号の検証
- ・ 事業進捗報告 (R2)
- ・ 整備計画の事業再評価 (事業費変更) → 事業継続 (R3)
- ・ 事業進捗報告 (R4) ……今回

時系列

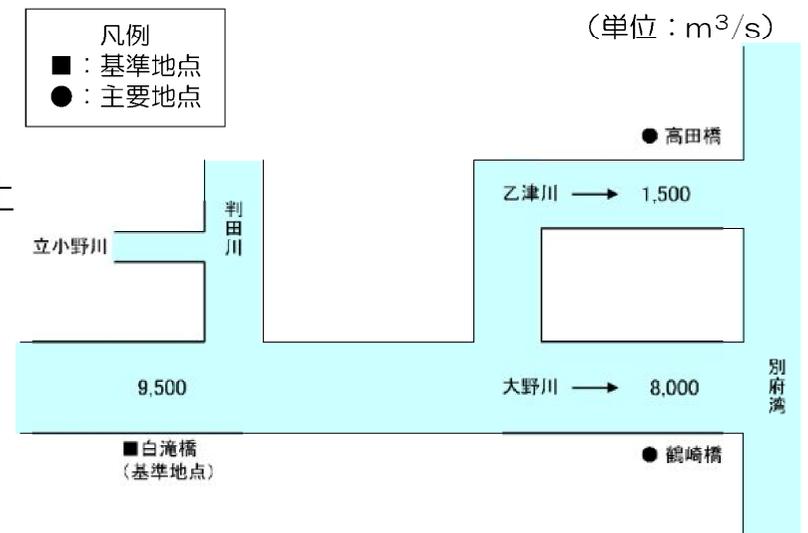
(2) 整備計画の概要 【整備計画の目標】

整備計画の目標

○本計画で定めた以下の治水・利水・環境に関する目標の達成に向け、河川整備を実施する。

治水

- ◆平成5年9月洪水と同規模（概ね40年に1回の確率で発生する洪水規模）の洪水を安全に流下させるため、目標流量を基準地点白滝橋で9,500m³/sとする。
- ◆計画高潮位の高潮及び計画津波が河川外に流出することを防止し、海岸における防御と一体となって浸水被害を防止する。
- ◆内水による浸水被害が著しい地域については、内水氾濫による床上浸水等の被害の軽減を図る。
- ◆地震対策については、大規模な地震動が発生しても、河川管理施設として必要な機能を確保します。
- ◆計画規模を超える洪水等の発生や整備途上において施設能力を超える洪水等が発生した場合においても、浸水被害の最小化を図るための危機管理体制等の整備に努める。



整備目標の基準地点流量

利水

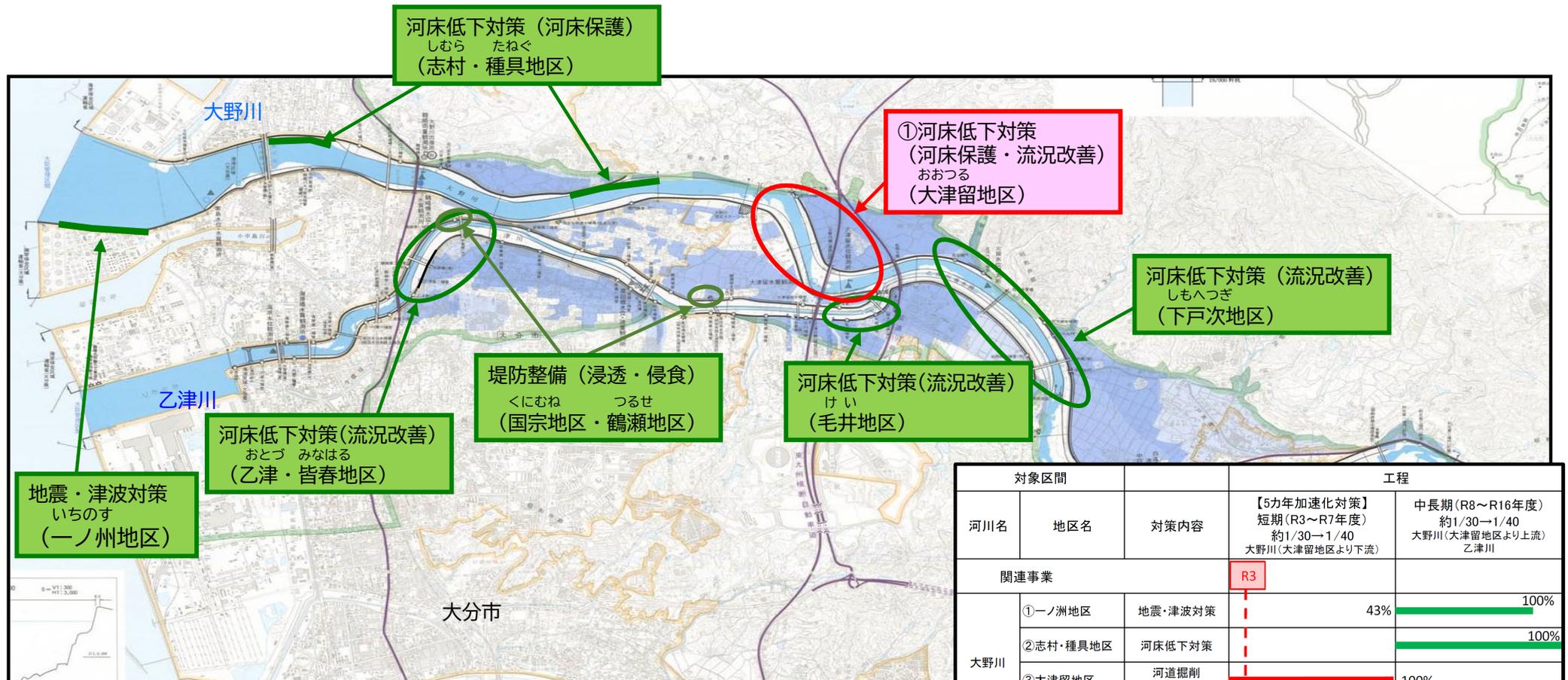
- ◆河川水の利用に関しては、引き続き、河川環境の保全及び河川水の安定した利用に努める。
- ◆流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、白滝橋地点において概ね17m³/sを目標とする。
- ◆渇水による被害の軽減に努める。

環境

- ◆動植物の生息・生育・繁殖環境については、多様な河川環境の保全又は創出に努める。
- ◆水質は、関係機関と連携し、その保全に努める。
- ◆河道掘削や護岸等の河川整備にあたっては、良好な河川環境が保全又は創出されるよう努める。
- ◆景観については、大野川の有する良好な自然景観の維持又は形成に努める。
- ◆人と河川の豊かなふれあいの場の確保は、適正かつ安全・快適な河川利用がなされるよう努める。

河川整備の進捗・実施状況【河川改修事業】

- 大野川の堤防整備は約97%と概ね完成しているが、河床低下対策と質的整備の計画が残っている。
- 大津留地区の河床低下対策を現在施工中で、令和7年度の完了を目標としている。
- その他整備箇所についても、大津留地区整備後、令和16年度完了を目標に整備を行う。



※今後の社会情勢等の変化により変わる可能性があります

対象区間		工程		
河川名	地区名	対策内容	【5カ年加速化対策】 短期 (R3~R7年度) 約1/30→1/40 大野川 (大津留地区より下流)	中長期 (R8~R16年度) 約1/30→1/40 大野川 (大津留地区より上流) 乙津川
関連事業			R3	
大野川	①一ノ州地区	地震・津波対策	43%	100%
	②志村・種具地区	河床低下対策		100%
	③大津留地区	河道掘削 河床低下対策		100%
	④下戸次地区	河道掘削		100%
乙津川	⑤国宗・鶴瀬地区	浸透対策		100%
	⑥乙津・皆春地区	河道掘削		100%
	⑦毛井地区	河道掘削		100%

河川整備の進捗・実施状況【大津留地区】

- 湾曲部に位置し、出水のたびに河床低下が進む大津留地区において、流況改善、河床保護を目的とした河床低下対策を行っている。
- また当該地区は、決壊した場合の浸水被害が非常に大きいことから、ブロック3面張りによる「粘り強い河川堤防」の整備も併せて行っている。

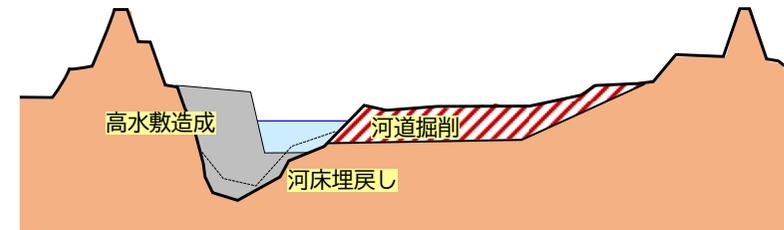
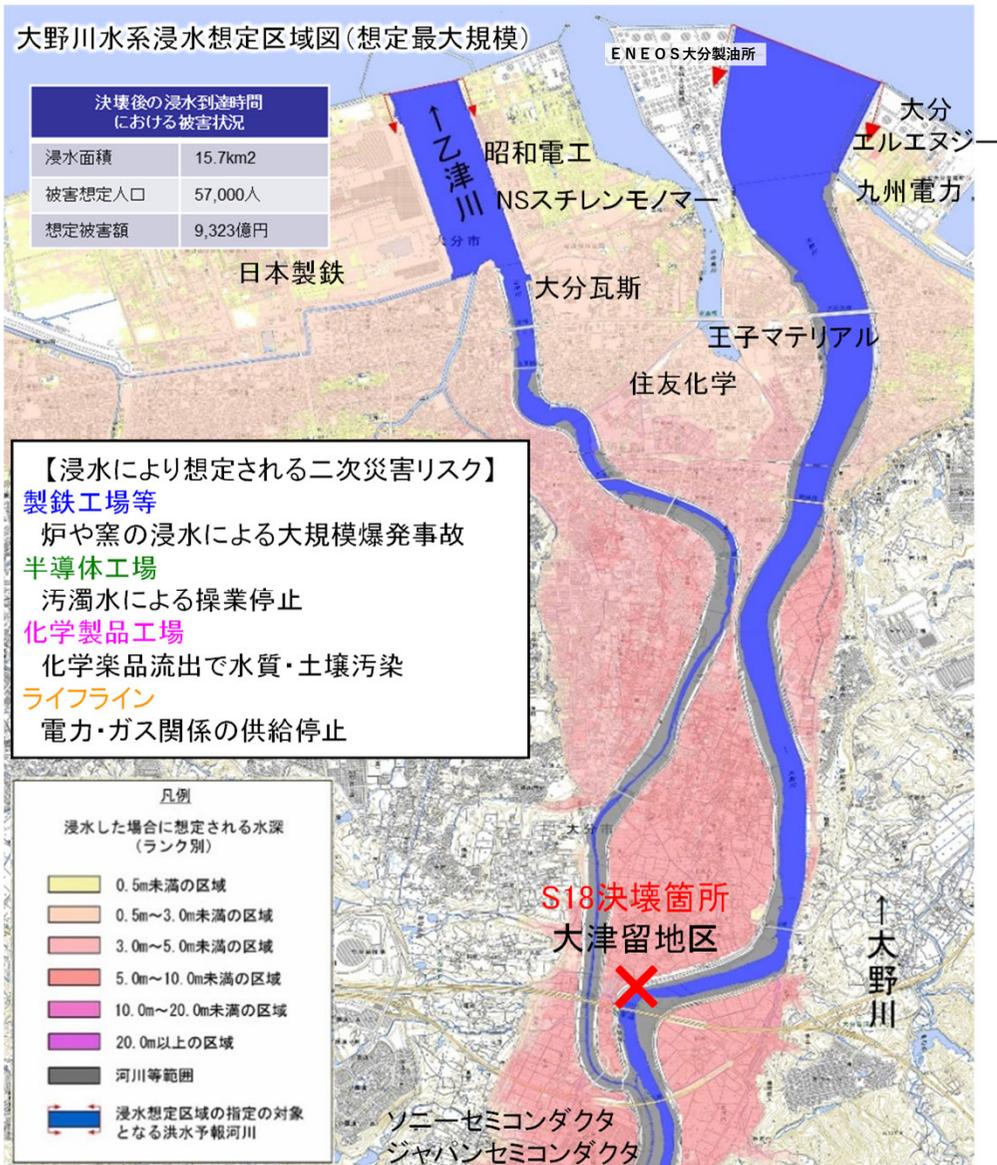


図1. 河床低下対策イメージ

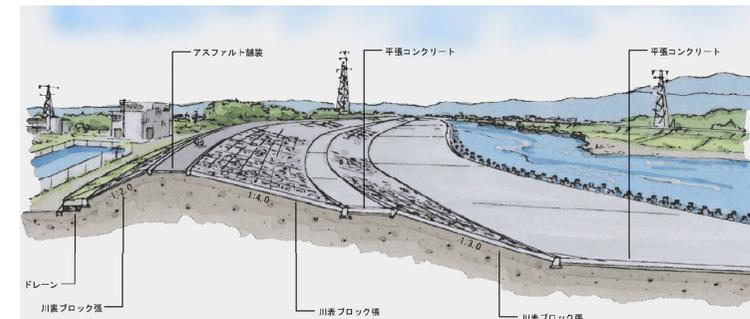


図2. 粘り強い堤防整備イメージ

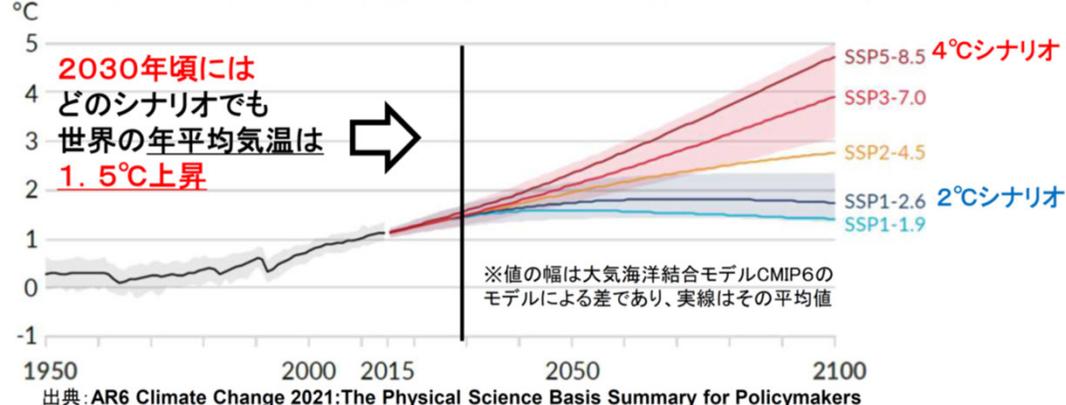


整備状況写真 (R4.4月撮影)

今後の予定

- 気候変動（気温上昇）に伴う降雨量の増大に対応するため、全国で基本高水流量の見直しを実施中
- 大野川では現在、基本高水流量の見直しを行っており、それに伴い河川整備基本方針の変更を行う予定
- 河川整備基本方針変更後には、引き続き河川整備計画の変更を行う予定

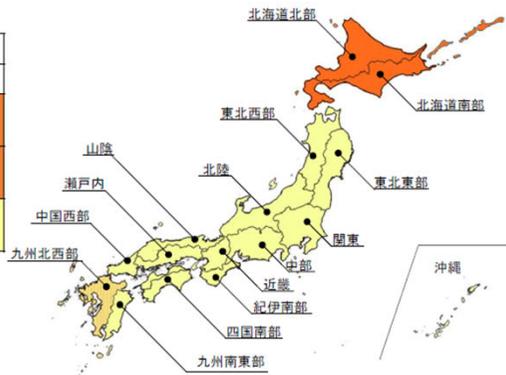
<1850年～1900年に対する世界平均気温における各シナリオごとの予測>



<地域区分毎の降雨量変化倍率>

地域区分	2°C上昇	4°C上昇	
		短時間	
北海道北部、北海道南部	1.15	1.4	1.5
九州北西部	1.1	1.4	1.5
その他(沖縄含む)地域	1.1	1.2	1.3

※ 4°C上昇の降雨量変化倍率のうち、短時間とは、降雨継続時間が3時間以上12時間未満のこと3時間未満の降雨に対しては適用できない
 ※ 雨域面積100km²以上について適用する。ただし、100km²未満の場合についても降雨量変化倍率が今回設定した値より大きくなる可能性があることに留意しつつ適用可能とする。
 ※ 年超過確率1/200以上の規模(より高頻度)の計画に適用する。



<参考>降雨量変化倍率をもとに算出した、流量変化倍率と洪水発生頻度の変化の一級水系における全国平均値

気候変動シナリオ	降雨量	流量	洪水発生頻度
2°C上昇時	約1.1倍	約1.2倍	約2倍
4°C上昇時	約1.3倍	約1.4倍	約4倍

※ 2°C、4°C上昇時の降雨量変化倍率は、産業革命以前に比べて全球平均温度がそれぞれ2°C、4°C上昇した世界をシミュレーションしたモデルから試算
 ※ 流量変化倍率は、降雨量変化倍率を乗じた降雨より算出した、一級水系の治水計画の目標とする規模(1/100～1/200)の流量の変化倍率の平均値
 ※ 洪水発生頻度の変化倍率は、一級水系の治水計画の目標とする規模(1/100～1/200)の降雨の、現在と将来の発生頻度の変化倍率の平均値(例えば、ある降雨量の発生頻度が現在は1/100として、将来ではその発生頻度が1/50となる場合は、洪水発生頻度の変化倍率は2倍となる)

大野川水系河川整備基本方針 変更予定



大野川水系河川整備計画 変更予定